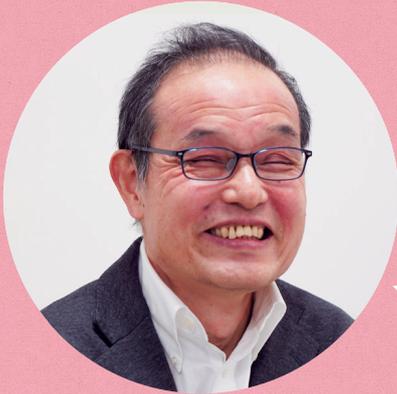


WE
LOVE

April 2022
地域医療支援学レター

vol.
39



CONTENTS

- 活動報告
- セミナー報告
- リレートーク第39回
- R6年グランドオープン
石見地方山間部で頑張る公立邑智病院
公立邑智病院
院長 山口 清次 先生

ACTIVITY REPORT 活動報告

男女共同参画講義

【場 所】島根大学医学部臨床大講堂
【対 象】島根大学医学部医学科4年生
【主 催】島根大学医学部地域医療支援学講座 島根県医師会

午前の部は広島大学医学部医学教育センター教授の蓮沼直子先生に、『ライフイベントとキャリア』について教示頂いた。シナリオグループワークは男女混合19グループに分け、そのうち4グループに考えを発表してもらい、先生から講評を頂いた。中盤では、大谷翔平選手の目標達成シートのワークで、将来の目標を言語化することの難しさを学び、達成するための項目を可視化し、そのプロセスについて考えた。最後に、卒業後10年目までのキャリア年表を作成し、どのようなワーク・ライフを目指すのか、学生は将来への具体的なイメージを膨らませた。

午後の部は、島根大学の3名の先生をキャリアモデルにお話し頂いた。それぞれに苦勞しながらも、家庭と仕事を両立している様子が伺えた。

医師会共同主催の特別講演では2名の先生にご講演頂いた。一人目は神奈川県立保健福祉大学教授の吉田穂波先生に『「受援力」についてのお話を頂いた。『常に感謝の気持ちを持ち、愛を注ぐことが患者さんに接するときにも大切である』と教示頂いた。

二人目はWHOシニアアドバイザーの進藤奈邦子先生に、WHO本部ジュネーブからお話し頂いた。世界のコロナ情勢やオミクロン株の脅威についてデータをお示し頂き、エビデンスに基づく貴重な講演を拝聴できた。また、進藤先生のご経歴について、家庭と仕事を両立しながらWHO医師として第一線での活躍など輝かしいキャリアの軌跡についてお話し頂いた。

学生からは「このような講義はほとんどなかったのでもって参考になった。」という感想が聞けた。学生の男女共同参画に対する意識がさらに高まるよう、次年度に向けて充実したプログラム構成を考えていきたい。学生にとっても普段とは違う講義で実りが多かったようである。

令和3年12月16日(木)9:40~16:10



第12回中四国地域医療フォーラム (Web開催)

【参加者】136名
【主 催】島根大学医学部地域医療支援学講座 島根県健康福祉部医療政策課 一般社団法人しまね地域医療支援センター

主催県として、関係機関と連携し準備を進め、2月5日に開催した。

第1部のブレ集会は「地域医療関係講座の現状と課題」というテーマで8大学からの報告が行われた。コロナ禍における地域医療教育の取り組みについて様々なヒントを得ることができた。また、各大学との連携の必要性を再認識した。

第2部の本集会は中四国9県の大学の地域医療関係講座・学生・各県の地域医療支援センター及び担当者に参加頂いた。「地域枠制度のこれまでの検証と今後より実効性のある制度とするための工夫及び取組について」をテーマに各県からの報告が行われ、活発な議論が交わされた。

中盤では、地域枠卒業医師で益田赤十字病院にご勤務の山口祐貴先生に「地元益田市の医療に携わって」のテーマでご発表頂いた。地元の市中病院で勤務しながら、学位取得等迄のキャリアストーリーや専門医取得への志は、学生達にもしっかりと届いたのではないかと考える。支援者側としても卒前の地域医療実習や地域との交流が重要であることを再認識させられた。

続いて、しまね総合診療センターの白石吉彦先生にセンター設置目的や取組等をご紹介頂いた。IT活用により、どこにいても教育や情報の共有が可能となるバーチャルオフィスシステムが構築され、多面的・多角的な教育提供が可能になったと感じた。更に、島根県の総合医ネットワークがより一層強固なものになったと考える。

ご参加頂いた大学関係機関の皆様のご協力により無事終了できましたこと感謝申し上げます。

令和4年2月5日(土)10:00~16:20



第3回しまね総合診療の集い 阿部顕治先生記念講演 (Web開催)

【テーマ】伝えたいこと~四半世紀 地域医療をみつめて~
【講師】浜田市国保診療所連合体 弥栄診療所 所長 阿部 顕治 先生
【参加者】108名(医師、医学生、看護学生、メディカルスタッフ、行政職員、高校生)

弥栄診療所の所長である阿部 顕治先生が令和3年度でご退職を迎えられる。しまね総合診療の集いでは、長きに亘り総合診療医として島根の地域医療にご尽力頂いた阿部先生の記念講演をWebで開催した。

講演は四半世紀地域医療をみつめて「I 小さな村の診療所で学んだこと」「II 村から市へ、診療所連合体へ」「III 地域医療から地域包括ケアへ」「IV 診療所連合体のこれから」についてお話し頂いた。

広報開始より多くの問い合わせがあり大きな反響があった。先生が島根医科大学時代に農山村地域医療研究会を立ち上げられた時のお仲間から現役高校生まで、多くの方にご参加を頂いた。講演後には沢山の質問や賛辞の言葉が贈られた。

講座では今後も地域医療学の講師など引き続きお世話になるが、教育・人材育成に多大なるお力添えを頂いた先生に感謝とお礼を申し上げます。



地域医療体験実習！ (春季地域医療実習) がスタート！！

【実習参加者】18名(島根大学16名、鳥取大学1名)

新型コロナウイルス感染症のオミクロン株が全国的に流行する中、島根県の「まん延防止等重点措置」は2月20日をもって解除された。依然感染状況は続いているが、6圏域(松江・隠岐・出雲・浜田・益田・隠岐)の保健所と27の医療機関、訪問看護ステーション・障がい者施設等の協力を得て実習を行うことになった。

他大学からは鳥取大学の1年生1名の参加があり、島根大学は1年生が10名、2年生が7名の参加となった。夏季の地域医療実習に続いて参加した学生もいたが、殆どが学内の早期体験実習以降初めの実習で、開始時は緊張の面持ちであった。

保健所で圏域の医療の概況と保健所の危機管理(新型コロナウイルス)についてお話しを伺い、それぞれの圏域医療機関に分かれた。隠岐圏域は3泊4日、それ以外は2泊3日の実習がスタートした。



セミナー報告 SEMINAR REPORT



地域医療 Webinar



災害医療をするということ

【実施日】令和4年1月11日(火)18:00~19:00
【講師】国立病院機構本部DMAT事務局 (災害医療専門職) 小早川 義貴 先生
【参加者】35名

概要

先生はこの度の新型コロナウイルス対策において、武漢帰国者・ダイヤモンドプリンセス号等の対応にも当たられ、今でこそ話せるエピソードを交えお話し頂いた。

厚労省が作ったクラスター対策班や地域支援班の一部をDMATが担い、感染制御と同時に業務継続に係る体制整備が行われた。また、医療崩壊寸前の各地で実際に訪問診療に出向く等、取り組みもご紹介頂いた。

災害死についても説明頂き、災害を引き起こすハザードのみの対応では多くの命は救われず、災害によって引き起こされる生活の変化等混乱からもたらされる死を適切なマネジメントの提供により防がねばならないと教示頂いた。しかし、残念ながら亡くなるケースがあり、どうしたら尊厳ある死を提供できるのか考えてやってきたと話された。災害医療の最前線に立たれる先生の言葉は重く、医療者の姿勢として深く感銘を受けた。

ちょっと一息、つけるとこ。



「ちょっと一息、つけるとこ」のキャッチコピーは、カフェや寛ぎスペースのようなホッとできる場所をイメージしています。困った時【えんネット】の存在を思い出して下さい。

えんネットの広報用ポスター！フライヤーを作成しました。

Career Webinar



ダイバーシティ社会で医師になる あなたへ伝えたいこと

【実施日】令和3年12月22日(水)12:15~12:45
【講師】島根大学医学部小児科学講座 准教授 駿嶋 有紀 先生
【参加者】18名

概要

先生は育児経験を通して、20年の小児科医のキャリアをもってしても想定外の事ばかり起きたと話され、母親・職業人としての自己嫌悪や小児科医としての矛盾等もお話し頂いた。そこから気付いたピットホールとして、「男女共同参画と言いつつも現況はどれだけ“女性”が仕事と育児を両立させるかに焦点が当たっている?男性はどうか?」と提起された。

学生へのメッセージとして、男子学生には「家事育児への参加、支える側への支援も必要。男女同等にキャリア形成する権利がある」、女子学生には「育児や家事は全部しなくてよい、キャリアを維持する意志、男化もしくは遠慮する生き方ではなく“自分”で動く」と贈られた。最後に「時代はダイバーシティ社会に突入している。まずはそれぞれの意識変革から始まる。皆さん一人一人が歴史をつくる。」と結ばれた。



整形外科のすすめ ~田舎の野球小僧が整形外科医に?~

【実施日】令和4年2月9日(水)12:15~12:45
【講師】島根大学医学部整形外科科学講座 医科医員 佐藤 匡哉 先生
【参加者】23名

概要

先生は7年目の整形外科専門医で大学院生でもある。講演は、高校からの進路選択・大学時代・初期臨床病院の選択・整形外科医としてのキャリア形成過程を、その時々どのように考え、現在に至るのか丁寧にお話し頂いた。学生達には漠然と描く自己キャリアプランをどのように形にしていけばよいのか教示頂いたように考える。初期臨床研修病院の選択に当たっては、“一人で当直ができる力を養う”を目標に、“救急医療が充実している・ほぼ全ての科がある・Common Diseaseが診れる・同期が多い病院”ということを重視されたそうである。「ゼロイチにすることをどの診療科でも意識し学んだ」という言葉が印象に残った。整形外科科学講座のご紹介では、「整形外科のニーズは極めて高く、やりがいがある。6年次の臨床実習に臨んで欲しい」とメッセージを贈られた。



ウロの〇〇ハンパないって!

【実施日】令和4年1月26日(水)12:15~12:45
【講師】島根大学医学部泌尿器科学講座 教授 和田 耕一郎 先生
【参加者】23名

概要

先生は令和3年8月にご出身の岡山大学から当医学部泌尿器科学講座の教授として着任された。先生の和顔の広報用ポスターが張り出されてから、気になるのは「ウロの〇〇ハンパないって!」のテーマであった。「泌尿器科の〇〇」と想像しながら、心を掴まれ待ちわびたお話であった。ハンパないお話は、〇〇に8つのワード①守備範囲②需要③疾患数④早熟感⑤感動⑥やりがい⑦魅力⑧島根愛・楽しさが入った。

度肝を抜かれるほどテンポよく講座をご紹介頂き、その端的な表現と「自撮りのドヤ顔写真」付きのスライドはインパクト満載であった。最後に医局員全員の写真が映し出され、「ウロの一体感・充実感ハンパないって!」と締めくくられた。

敬意を表しテーマ文をお借りして感想を申しあげるならば、入ワードは「教授のプレゼン!!」



Stay hungry, Stay foolish.

【実施日】令和4年3月1日(火)12:15~12:45
【講師】島根大学医学部病理学講座 病態病理学 教授 並河 徹 先生
【参加者】65名

概要

先生は医学部長を歴任されるなど島根大学に長きにわたってご尽力してこられた。講演は、学生・教職員を含め42名の事前申し込みがあり、開催前から大変な反響であった。進路について「自分には何が向いているのかと悩むを持つことは誰しもあると思う。何に向いていたかは事後的にしか決まらないので、余計なことは考えないで、やりたいことをした方がよい。わからないときは偶然に委ねるのも良い。ただし全力で取り組むのが大切だ」と話された。更に「私淑できる先輩や先生・共感できる友人を見つけることが大切で、いろんなことをやってみる姿勢も大事だ」と付け加えられた。また、「海外に出て自分が“外国人”になること、“ムダ”に思える勉強にも取り組んでほしい」と話された。進路に悩みを持つ学生のみならず、若手医師にも心に留めておいてほしいお話であった。



公立邑智病院

院長

山口 清次 先生

公立邑智病院は中国山地のまん中にある邑智郡3町による郡立の病院です。都市部の大規模病院まで40～80km離れているため、この地域での医療は原則として邑智病院で完結しなければなりません。近隣の診療所や都市部の医療機関との連携、さらに必要に応じて自治体の政策立案にも参画します。

へき地の病院にいて感じることは、医師等の人材確保が想像以上に大変なことです。現在常勤医は10名ですが、一人医師が急に辞職すると穴が開いてしまいます。島根県や大学医局等からも対応するゆとりがあるとは限りません。やむなく全国公募や口コミで医師をスカウトすることもあります。そのような時、先方から厳しい就労条件を示されて対応に苦勞することもあります。

自治体や病院スタッフなどの努力によって人材確保、健全経営をギリギリ維持しているのが現状

です。一方地域の病院では患者と病院の距離感が近く、地域医療のやりがいを感じることができます。へき地の病院には短所もありますが、これらを意識して克服しながら、地域医療を経験することは貴重な機会になります。島根県や大学病院が連携して、島根県内の医療の質に地域格差が出ないような体制を願っています。



公立邑智病院

〒696-0193 島根県邑智郡邑南町中野3848-2
TEL 0855-95-2111 FAX 0855-95-2313

座談会を終えて

この度地域医療支援学講座のご助力を得て「ヤングケアラー」というやや重たいテーマで座談会を開催しました。自分の考えや思いを、データを添えて言語化するのは良い経験でした。

さて、私は今回裏テーマとして「知ること」を設定していました。医療従事者として社会参画するには専門知識は大前提であり、そのことは日々の臨床実習で私も痛感する所ですが、医療提供に先立って目の前の物事を理解しようとする姿勢もまた不可欠だと感じています。そのためには医療の枠に囚われず色々なことを知っておくことが必要です。仮に自分に不都合なことを知ったとしても、そこにはその後の行動を選択する余地が生まれます。だから私は知り続けていきたいです。

参加頂いた学生さんからは、新たな知見を得られて良かったと感想を頂きました。また、自分の知らない所でこの会が誰かの背中を押していたことを後日知り、普段おちゃらけている私の柄にもない活動も満更悪くなかったと思う次第です。

島根大学医学部医学科 ペンネーム：降留墨輝



今後の予定

Career Webinar

令和4年4月11日(月)12:15~12:45

講師：守田 美和 先生
島根大学医学部内分泌代謝内科 講師

令和4年5月18日(水) 12:15~12:45

講師：山根 正修 先生
島根大学医学部呼吸器外科 教授

令和4年6月予定 12:15~12:45

講師：羽田野 義郎 先生
島根大学医学部感染制御部 准教授

地域医療Webinar

令和4年4月12日(火)18:00~19:00

講師：上野 伸行 先生
浜田市国民健康保険あさひ診療所 所長

令和4年5月13日(金)18:30~19:30

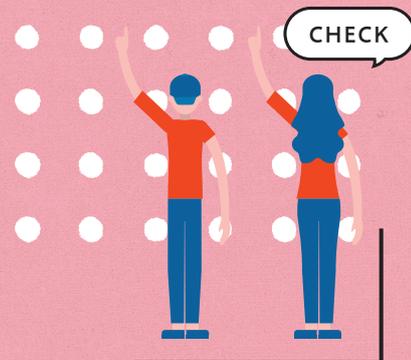
講師：平原 佐斗司 先生
東京ふれあい医療生活協同組合 研修センター センター長

令和4年度特別選抜卒医学生新入生説明会・意見交換会

令和4年4月4日(月)17:30~19:00

第1回しまね総合診療の集い

令和4年4月16日(土)13:20~18:00



レターをお読みいただきありがとうございます。
今年度も支援学レター「We Loveちいき」を通じて講座の活動を皆様にお伝えしていきたいと思っております。
草花が芽吹き柔らかな日差しを感じられるようになりました。春は入学や引越し、部署の異動など生活環境が大きく変わります。新たな出会いにワクワクする反面、ストレスになることもあります。体調を整え良きスタートをお切りください。

